

DI 指数、23年ぶりにプラスへ

第60回冷凍空調機器需要予測調査（中間報告）

当会は、平成26年4月から5月末までの期間に、第60回冷凍空調機器需要予測調査を実施した。同調査は全普通会員3,000社を対象に調査票を送付、書面記入方式で実施した。その結果、5月末日までに回答のあった453社（回答率15%）について集計したものの中間報告である（回答企業の地域別・業態別は表1）。

同調査は、年1回実施しており、昨年は4月に実施している。

I. 最近の商況

DI指数プラス1.2ポイントと平成3年調査以来のプラスへ

「最近の商況」の質問では、「良い」「やや良い」と前年度を上回った企業は29.3%（前回30.1%）、「やや悪い」「悪い」「非常に悪い」を合わせて28.1%（同34.1%）となり、業況を占うDI（景況）指数はプラス1.2ポイント（同マイナス4ポイント）となった。前回調査と比較して、5.2ポイントプラスとなり、平成3年の調査以来23年ぶりにDI指数がプラスに転じた。これで4年連続DI指数が前年度比プラスとなった（表2）。

日本経済は、リーマンショックの影響などから100年に1度と言われる世界的な経済危機から、円安・株高を受けて、大企業、輸出を中心とした製造業の業績の回復を受けて上向き、さらに、回復基調にある景気に押されて設備投資が増加したことから、高効率機器への入れ替え、消費税増税前の駆け込み需要、補助金制度の充実などの相乗効果によるものと言える。

特にここ3年間では、DI指数が83.3ポイントも改善しており、V字回復となった。

地区別に見ると、マイナスだったのは「関東甲信越静」（マイナス11.6ポイント）と「近畿」（マイナス15.6ポイント）の2地区に止まり、その他の地区はプラスとな

った。特に西日本地区のプラス24ポイント、中国地区のプラス13.5ポイントと二極化している。

II. 冷凍空調機器の売れ行き状況

PACは大幅改善、ショーケースは横ばい

パッケージエアコンの売れ行き状況では、「良い」は21.9%（前回調査16.8%）となり、昨年並

表1 地域別・業態別回答数

地域	件数	空調設備	冷凍・冷蔵設備	その他	無回答
合計 (件) (%)	453	285	92	70	6
	100.0	62.9	20.3	15.5	1.3
北海道地区	25	9	14	2	—
	100.0	36.0	56.0	8.0	—
東北地区	64	43	12	8	1
	100.0	67.2	18.8	12.5	1.6
関東甲信越静	147	92	35	17	3
	100.0	62.6	23.8	11.6	2.0
中部地区	51	38	5	7	1
	100.0	74.5	9.8	13.7	2.0
近畿地区	32	19	5	7	1
	100.0	59.4	15.6	21.9	3.1
中国地区	37	22	5	10	—
	100.0	59.5	13.5	27.0	—
四国地区	32	18	5	9	—
	100.0	56.3	15.6	28.1	—
西日本地区	50	32	10	8	—
	100.0	64.0	20.0	16.0	—

表2 最近の商況

地域	件数	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	非常に悪い	無回答
合計 (件) (%)	453	40	93	178	75	43	9	15
	100.0	8.8	20.5	39.3	16.6	9.5	2.0	3.3
北海道地区	25	2	5	12	4	1	—	1
	100.0	8.0	20.0	48.0	16.0	4.0	—	4.0
東北地区	64	7	14	23	12	6	1	1
	100.0	10.9	21.9	35.9	18.8	9.4	1.6	1.6
関東甲信越静	147	10	29	45	29	21	6	7
	100.0	6.8	19.7	30.6	19.7	14.3	4.1	4.8
中部地区	51	5	8	28	7	3	—	—
	100.0	9.8	15.7	54.9	13.7	5.9	—	—
近畿地区	32	3	3	14	7	4	—	1
	100.0	9.4	9.4	43.8	21.9	12.5	—	3.1
中国地区	37	1	10	19	6	—	—	1
	100.0	2.7	27.0	51.4	16.2	—	—	2.7
四国地区	32	4	6	13	2	6	1	—
	100.0	12.5	18.8	40.6	6.3	18.8	3.1	—
西日本地区	50	8	13	17	6	2	1	3
	100.0	16.0	26.0	34.0	12.0	4.0	2.0	6.0

表3 前年の売行き状況 (パッケージエアコン)

地域	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件)	453	99	245	68	41
合計 (%)	100.0	21.9	54.1	15.0	9.1
北海道地区	25	3	14	5	3
	100.0	12.0	56.0	20.0	12.0
東北地区	64	19	35	6	4
	100.0	29.7	54.7	9.4	6.3
関東甲信越静	147	29	78	26	14
	100.0	19.7	53.1	17.7	9.5
中部地区	51	11	28	8	4
	100.0	21.6	54.9	15.7	7.8
近畿地区	32	7	9	9	7
	100.0	21.9	28.1	28.1	21.9
中国地区	37	6	25	3	3
	100.0	16.2	67.6	8.1	8.1
四国地区	32	7	20	4	1
	100.0	21.9	62.5	12.5	3.1
西日本地区	50	12	29	5	4
	100.0	24.0	58.0	10.0	8.0

みの「普通」は54.1% (同54.8%) と、昨年並以上の企業が3/4となった。これに対して「悪い」は15.0% (同18.0%) と昨年より改善している。また、2012年度のパッケージエアコンの出荷台数は、前年度比110.6%の約83.5万台となり、日本冷凍空調工業会発表の出荷台数とほぼ同じ傾向を示している (表3)。

一方、コールドチェーン機器の売れ行き状況では、冷凍・冷蔵ショーケースは、「良い」と回答した企業は5.3% (同3.3%) で、「普通」が23.4% (同26.5%)、「悪い」が39.7% (同39.3%) となった。冷凍冷蔵庫は、「良い」は7.5% (同5.8%)、「普通」は33.3% (同34.0%)、「悪い」が30.0% (同31.7%) と一昨年並となったが、まだ依然低い水準である。また、2012年度の冷凍冷蔵ショーケースの出荷台数は、前年度比101.0%の30.1万台とほぼ横ばい、業務用冷蔵庫は前年度比107.9%の19.4万台となり、こちらは伸びている。冷凍冷蔵ショーケースについては出荷台数とほぼ同じ傾向を示しているが、業務用冷蔵庫については、若干異なる様相を示している (表4、表5)。

見通しは厳しめ

これに対し、今年度の見通しでは、パッケージエアコンにおいて「良い」と回答した企業は17.7%と、前年度実績の「良い」の21.9%と比較して、今年度は若干厳しい見方をしている。また、冷凍冷蔵ショーケースでは、「良い」は3.3%、「普通」は25.6%、「悪い」は39.3%と前年度実績と比較して、ほぼ横ばいか、若干の厳しい見方をしている。冷

表4 前年の売行き状況 (冷凍・冷蔵ショーケース)

地域	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件)	453	24	106	180	143
合計 (%)	100.0	5.3	23.4	39.7	31.6
北海道地区	25	2	8	11	4
	100.0	8.0	32.0	44.0	16.0
東北地区	64	3	18	21	22
	100.0	4.7	28.1	32.8	34.4
関東甲信越静	147	10	31	51	55
	100.0	6.8	21.1	34.7	37.4
中部地区	51		7	26	18
	100.0	—	13.7	51.0	35.3
近畿地区	32	2	7	10	13
	100.0	6.3	21.9	31.3	40.6
中国地区	37	1	10	17	9
	100.0	2.7	27.0	45.9	24.3
四国地区	32	1	11	12	8
	100.0	3.1	34.4	37.5	25.0
西日本地区	50	5	9	24	12
	100.0	10.0	18.0	48.0	24.0

表5 前年の売行き状況 (業務用冷凍冷蔵庫)

地域	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件)	453	34	151	136	132
合計 (%)	100.0	7.5	33.3	30.0	29.1
北海道地区	25	4	14	5	2
	100.0	16.0	56.0	20.0	8.0
東北地区	64	8	19	18	19
	100.0	12.5	29.7	28.1	29.7
関東甲信越静	147	15	42	36	54
	100.0	10.2	28.6	24.5	36.7
中部地区	51		16	19	16
	100.0	—	31.4	37.3	31.4
近畿地区	32	1	10	8	13
	100.0	3.1	31.3	25.0	40.6
中国地区	37	2	13	14	8
	100.0	5.4	35.1	37.8	21.6
四国地区	32		14	9	9
	100.0	—	43.8	28.1	28.1
西日本地区	50	4	16	21	9
	100.0	8.0	32.0	42.0	18.0

凍冷蔵庫も横ばいと予測している (表6～表8)。

その他、現在、建設工事が増加している中で、技能労働者不足が指摘されている。その現状について、調査した。

その結果、「不足している」は、62.0ポイント、「大いに不足している」の10.4ポイントと併せて7割以上の企業が「不足している」と回答している。また、「労働者不足による影響」については、17.4%の企業が「影響が出ている」としており、このまま何らかの対策を講じないと「支障が出る」と44.8%の企業が回答している。

その他、退職金の制度については、9割近くが、何らかの退職金制度を持っていることが判明した (表9～11)。

表6 今年の売行見通し（パッケージエアコン）

地域	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件)	453	80	243	88	42
(%)	100.0	17.7	53.6	19.4	9.3
北海道地区	25	1	15	7	2
	100.0	4.0	60.0	28.0	8.0
東北地区	64	18	31	10	5
	100.0	28.1	48.4	15.6	7.8
関東甲信越静	147	21	83	30	13
	100.0	14.3	56.5	20.4	8.8
中部地区	51	10	27	11	3
	100.0	19.6	52.9	21.6	5.9
近畿地区	32	2	12	9	9
	100.0	6.3	37.5	28.1	28.1
中国地区	37	6	23	5	3
	100.0	16.2	62.2	13.5	8.1
四国地区	32	5	18	7	2
	100.0	15.6	56.3	21.9	6.3
西日本地区	50	9	29	8	4
	100.0	18.0	58.0	16.0	8.0

表7 今年の売行見通し（冷凍・冷蔵ショーケース）

地域	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件)	453	15	116	178	144
(%)	100.0	3.3	25.6	39.3	31.8
北海道地区	25		11	11	3
	100.0	—	44.0	44.0	12.0
東北地区	64	4	16	21	23
	100.0	6.3	25.0	32.8	35.9
関東甲信越静	147	7	33	52	55
	100.0	4.8	22.4	35.4	37.4
中部地区	51		9	25	17
	100.0	—	17.6	49.0	33.3
近畿地区	32	1	7	11	13
	100.0	3.1	21.9	34.4	40.6
中国地区	37	3	11	14	9
	100.0	8.1	29.7	37.8	24.3
四国地区	32		10	12	10
	100.0	—	31.3	37.5	31.3
西日本地区	50		12	26	12
	100.0	—	24.0	52.0	24.0

表8 今年の売行見通し（業務用冷凍冷蔵庫）

地域	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件)	453	29	160	135	129
(%)	100.0	6.4	35.3	29.8	28.5
北海道地区	25	4	12	8	1
	100.0	16.0	48.0	32.0	4.0
東北地区	64	8	19	17	20
	100.0	12.5	29.7	26.6	31.3
関東甲信越静	147	10	49	38	50
	100.0	6.8	33.3	25.9	34.0
中部地区	51		17	19	15
	100.0	—	33.3	37.3	29.4
近畿地区	32		12	7	13
	100.0	—	37.5	21.9	40.6
中国地区	37	3	14	12	8
	100.0	8.1	37.8	32.4	21.6
四国地区	32	1	12	9	10
	100.0	3.1	37.5	28.1	31.3
西日本地区	50	1	19	20	10
	100.0	2.0	38.0	40.0	20.0

表9 技能労働者の不足状況

地域	件数	大いに不足している	不足している	丁度いい	無回答
合計 (件)	453	47	281	116	9
(%)	100.0	10.4	62.0	25.6	2.0
北海道地区	25	2	17	6	
	100.0	8.0	68.0	24.0	—
東北地区	64	7	34	22	1
	100.0	10.9	53.1	34.4	1.6
関東甲信越静	147	17	89	40	1
	100.0	11.6	60.5	27.2	0.7
中部地区	51	5	33	13	
	100.0	9.8	64.7	25.5	—
近畿地区	32	5	16	7	4
	100.0	15.6	50.0	21.9	12.5
中国地区	37	2	24	9	2
	100.0	5.4	64.9	24.3	5.4
四国地区	32	1	27	4	
	100.0	3.1	84.4	12.5	—
西日本地区	50	4	33	12	1
	100.0	8.0	66.0	24.0	2.0

表10 労働者不足による工事への支障

地域	件数	出ている	このままだと、近いうちに支障がでる	出ていない	無回答
合計 (件)	453	79	203	34	137
(%)	100.0	17.4	44.8	7.5	30.2
北海道地区	25	4	12	2	7
	100.0	16.0	48.0	8.0	28.0
東北地区	64	10	25	3	26
	100.0	15.6	39.1	4.7	40.6
関東甲信越静	147	29	62	12	44
	100.0	19.7	42.2	8.2	29.9
中部地区	51	8	29	1	13
	100.0	15.7	56.9	2.0	25.5
近畿地区	32	6	11	4	11
	100.0	18.8	34.4	12.5	34.4
中国地区	37	6	13	6	12
	100.0	16.2	35.1	16.2	32.4
四国地区	32	4	20	3	5
	100.0	12.5	62.5	9.4	15.6
西日本地区	50	6	26	3	15
	100.0	12.0	52.0	6.0	30.0

表11 退職金制度について

地域	件数	自社独自の退職金制度がある	建退共、中退共の制度を利用している	退職金制度はない	無回答
合計 (件)	453	172	221	50	10
(%)	100.0	38.0	48.8	11.0	2.2
北海道地区	25	7	12	6	
	100.0	28.0	48.0	24.0	—
東北地区	64	18	36	8	2
	100.0	28.1	56.3	12.5	3.1
関東甲信越静	147	63	59	22	3
	100.0	42.9	40.1	15.0	2.0
中部地区	51	26	23	2	
	100.0	51.0	45.1	3.9	—
近畿地区	32	13	14	3	2
	100.0	40.6	43.8	9.4	6.3
中国地区	37	13	22	1	1
	100.0	35.1	59.5	2.7	2.7
四国地区	32	8	22	2	
	100.0	25.0	68.8	6.3	—
西日本地区	50	19	27	2	2
	100.0	38.0	54.0	4.0	4.0